

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュむろやま		
○保護者評価実施期間	R6年11月 27日		～ R6年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	R6年 12月 2日		～ R6年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様との連携が取れている。	子どもの様子の共有を心がけている。	お子さまの発達に関して、気になる部分は、保護者様にお聞きし、教えていただく。
2	子どもの活動等スペースが十分に確保されている。	運動支援室と座って遊んだり座学をする支援室をわけている。	運動支援室は危なくないように、ものを置かないようにしているが、子どもたちが自ら安全に遊べるような環境設定をしていきたい。
3	児童発達支援計画に沿った疎遠が行われている。	一人ひとりの発達を考えながら職員同士で話しながら、療育内容を考えている。	個別療育では、1回取り組んで見るのではなく、繰り返し取り組むことで評価をしながら、次の療育を考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員母不足で即時に対応できない。	ご利用者様は増えるが、職員の人数が増えない	職員の確保
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会があまりなかった。	どのように交流を進めていけばいいのか、わからない。	昨年末、地域の生活介護施設との交流を始めて開催した。交流をその時だけで終わらせるのではなく、何度も交流をする機会を持ち、どのような交流が必要なのかを模索していく。
3	非常時等の対応が保護者様に伝わっていない。	非常災害に備えた避難訓練や救出などの訓練を行っているが、その日のご利用者様のご家庭にしか伝わっていない。	避難訓練等、ご利用者様全員が参加できるように開催を考えていく。 その都度 保護者様にもお知らせを共通理解にしていく。